

# 新須磨 NEWS



## 予約の方法・予約受付時間

### 一般の方・患者様用

#### 医療サービス課

受付時間／12:00～17:00(月～土 ※日・祝除く)  
TEL／078-735-0001  
FAX／078-735-5685

### 医療機関の方用

#### 地域医療相談センター

受付時間／9:00～17:00(月～土 ※日・祝除く)  
TEL／078-735-0665(直通)  
FAX／078-735-0089

医療法人社団 慈恵会

## 新須磨病院

HPは  
コチラ



広報誌への  
ご意見・ご要望は  
こちらから→



新須磨ニュース  
バックナンバーは  
こちらから→



新須磨病院 広報誌「新須磨NEWS」 2022年1月発行(年4回発行) 発行元:新須磨病院  
表紙写真／Photo by:黒田 司(明石港)、田中 亜里彩(梅、検査機器)、YATA!(ホワイトタイガー)

©2022 新須磨病院/本誌に掲載されている内容の無断転載、転用及び複製等はご遠慮ください。

※本誌の取材・撮影には感染対策に充分配慮して行っています。

新須磨病院広報誌

2022 January 冬号



### Special

## リウマチ・関節痛の 治療特集／P1～P4

特集1 関節リウマチ治療とは?  
関節リウマチセルフチェック

特集2 関節痛～手指の痛み・しびれ・変形～

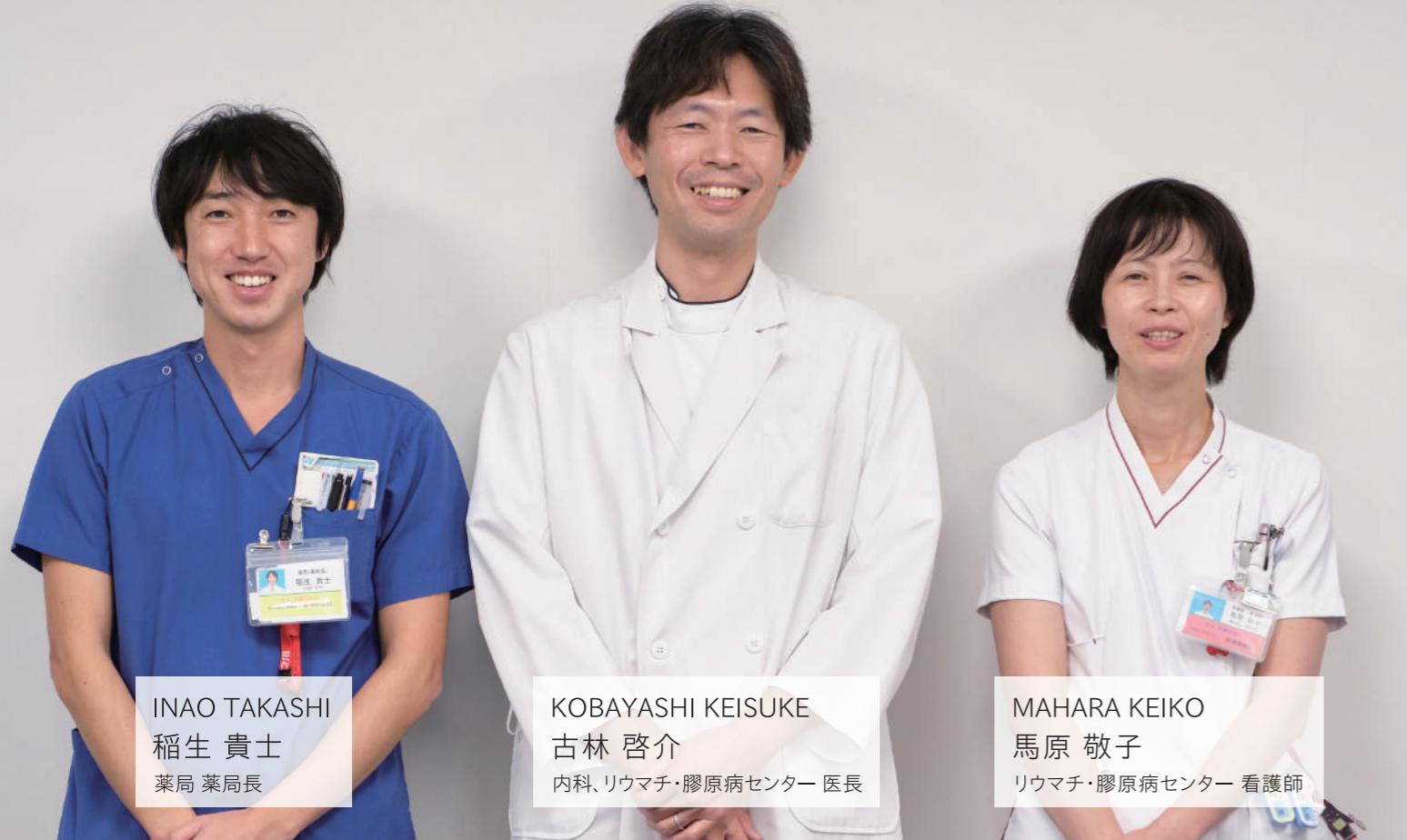
婦人科 舟木先生に聞く骨粗鬆症について／P5

部署紹介『検査室』／P5

慈恵会グループのご紹介 What's 神戸総合医療専門学校?／P6

町のお医者さんご紹介 長谷川医院／P6

## 関節リウマチ治療とは？



**医師や看護師、薬剤師が連携することで、患者さん一人ひとりにとって、最も適切な治療が行えるように日々心がけています。**

リウマチは患部を暖めると炎症がさらに悪化することも。  
まずは病院での診察を心がけてください。

古林 関節リウマチを簡単に説明すると、関節の痛みや腫れが慢性的に続く病気です。これは免疫の異常から生じ、放置すると関節が破壊されて指が変形することもあります。中には間質性肺炎の合併や稀に毛細血管の血管炎により、指が壊死してしまう場合もあります。リウマチの治療は、早期発見・早期治療が広く浸透されており、最近は手がこわばるといった関節が腫れていない状態で来院される方が多く、最近の治療薬の改善もあり、変形まで進むことは少なくなっています。

馬原 リウマチの患者さんで最も多いのが、50歳前後の女性。男性よりも女性のほうが圧倒的に多いと思います。理由としては、閉経するぐらいの年齢が免疫の変化が起きやすい時期で、その影響だと考えられます。逆に、男性の場合は年齢に関係がないように思います。ただし、喫煙者

や歯周病の方が発症リスクは高く、実際そのような傾向にあると思いますね。

古林 リウマチは、炎症が持続することで、痛みや腫れ、場合によっては変形を引き起してしまうことが特徴で、逆に軟骨のすり減りによる変形性関節症の痛みの原因は、炎症ではありません。つまり、炎症の有無によって、リウマチか変形性関節症かの分類がなされるのです。変形性関節症や安定した関節リウマチは、患部を温めると改善に向かうこともあります。逆に、炎症がある場合に温めてしまうと炎症もさらに悪化させてしまう恐れも。リウマチに効くと謳っている温泉は時として逆効果になってしまふこともあります。炎症がある場合は、なるべく冷やすよう心がけてください。

稻生 温泉の効能効果欄に書かれているとついいついどんな時でも効くと勘違いしてしまいがちですが、まずは病院で先生に相談して、自分の病気の状態を確認することが大切ですね。

古林 一般的な初期症状としては、起床時に手がこわばります。例えば、冬場に自転車をこいでいると、手が冷えて動かしづらかったり、痛みが走ったりしますよね？ 5～10分程度手や指を動かしていると元に戻りますが、そういう症状が日常的に続きます。関節は腫れていないが、手がこわばるという状態の方は、血液検査で判断します。

**リウマチの治療法は、患者さんとの相談から。自己注射や内服薬など、治療法は多岐に渡ります。**

古林 リウマチの症状は表れた時から完治するまではおよそ2年かかると言われます。しかし、その期間内で完治する人は全体の10～15%。つまり、多くの人は完治よりも、治療によって病態が極めて安定する寛解を目指します。基本的には異常な免疫を抑え込む免疫抑制剤を使用しますが、使い続けると効果が薄れることもあるため、その際は自己注射薬や点滴を利用して特殊なお薬を投与します。

馬原 当センターの取り組みとして、自己注射薬の開始時に医師、看護師、薬剤師で連携しサポートしています。具体的には、診察後、患者さんに見本の注射器を実際に触れて確認してもらい、自己注射の効能や使い方などが書かれたパンフレットをお渡しします。自宅で読んでもらい、次回の診察で、薬剤師の先生から注射薬の説明を受け、実際に自分で注射を打ちます。看護師はそのサポートだけでなく、注射の不安を少しでも軽減できるよう、会話を通してお手伝いをしています。

稻生 薬剤師は自己注射薬の手技だけでなく、薬の作用や副作用、シックデイについても説明しています。患者さんは事前にお薬のパンフレットで予習してられるため、説明する立場としてもスムーズに指導することができます。他にも先生に聞き忘れたことや治療に対しての不安や疑問なども治療開始前に解決できるよう対応しています。

**医師・薬剤師・看護師の連携を大切にしながら、患者さん一人ひとりが望む治療を進めています。**

古林 患者がどんな治療を望んでいるのか、ということが大事です。リウマチを治したいという想いは共通していますが、それを早く治したいのか、副作用なく治したいのかといったように、一人ひとり考えが異なります。副作用が心配な方は治療期間をじっくり長めに設定しますが、リウマチの活動性が高い方はより早く治療しなければならないケースもあり、その際は進行を止める治療を優先的に行います。

馬原 看護師も患者さんの痛みや辛さが軽減され、いち早く日常生活を取り戻せるよう最善を尽くしています。そ



の中で、患者さんに診察で一番身近に接する立場として、問診をもとに会話を交わしながら体調の変化や痛みといったサインを拾い上げ、先生方にお伝えしています。また、点滴の場合は化学療法室を使用するため、化学療法室のスタッフの協力があってこそ。もちろん、私たちが患者さんに自己注射指導をする前に、薬剤師の方が事前に指導いただけるおかげで、患者さんの理解度があがり、スムーズにケア・指導ができます。このように、スタッフ間の連携をとても大切にしています。

稻生 現状、外来で行われるリウマチの治療において、薬剤師が患者さんに関わるのは自己注射薬を開始する時だけのごくごく一部で、医師や看護師のように一人の患者さんの経過をじっくり追うことはできません。だからこそ、薬剤師としての視点で関わりお薬に対する患者さんの不安を解決することを一番大切にしています。

馬原 お薬に関して、患者さんと看護師の橋渡しを担わ



▲関節リウマチ患者さんのレントゲン。赤丸は骨破壊が起こり、骨が欠けている部分。

れていて、いつも助かっています。

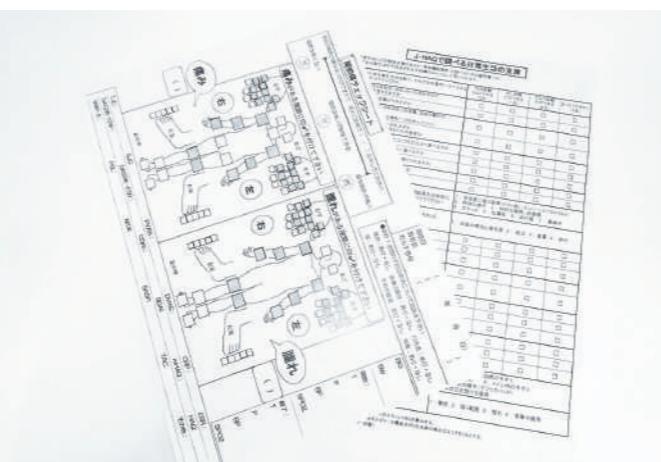
**稻生** ありがとうございます。あとは院内の薬剤師だけでなく、院外の薬局薬剤師さんとの連携も重要です。今は患者さんがスムーズにお薬を受け取れるよう在庫の調整などが中心ですが、今後は外来の医師や看護師と治療に関してもっと踏み込んだ連携をしていければと考えています。

**喫煙や歯周病が原因で、リウマチを発症することも。検査で早期発見・早期予防が有効だと思います。**

**古林** リウマチの予防法としては、禁煙や歯周病の治療はもちろんですが、リウマチ因子などを測定する検査機器で数値を測定してみることもおすすめします。免疫異常は発症する5年ほど前から血液内の数値で表れていると、献血からのデータで報告されています。検査することで、たとえ症状が見られなくても、自分が免疫異常を持っていることが分かるかもしれません。それが分かるだけでも、早期段階で予防策がとれるので、有効的な手段だと思います。

**馬原** あとは、ビタミンCや抗酸化作用のある食品をな

るべく多く摂り、充分に睡眠を取り、適度な運動を心がける。これらはリウマチの予防だけではありませんが、これが健康を保つための一番の秘訣だと思います。健康を維持するために、規則正しい生活を送りましょう。



▲当院で使用しているリウマチ問診票。痛みや腫れだけでなく日常動作での支障などもチェックを行う。

## 関節リウマチセルフチェック

□にチェックしてください。あなたはいくつ当てはまりますか？

**Q1.** 朝起きると、手のこわばりが30-1時間ほど持続する  はい  いいえ

**Q2.** 1か所以上の関節の腫れがある  はい  いいえ

**Q3.** ばね指がある  はい  いいえ

**Q4.** 場所を変えて、あちこち痛みが出る  はい  いいえ

**Q5.** 倦怠感が続く  はい  いいえ

**Q6.** 微熱がある  はい  いいえ

一つでも当てはまる方は、関節リウマチの可能性があります。  
一度、リウマチ外来までご相談ください。

## リウマチ・関節痛の治療特集 2

# 関節痛～手指の痛み・しびれ・変形～

手の症状で  
痛みがある場合は  
まず安静が第一



TSUTSUI MIO  
筒井 美緒  
整形外科 医長

手の症状で痛みがある場合は  
まず安静が第一

冬になると関節が疼くような経験をお持ちの方も多いと思います。膝や腰の痛みと同じで、手指でも寒いと痛みがひどくなることがあります。その原因是、寒さにより血管が縮んで血行が悪くなることが主因と考えられています。また、動かす機会が減れば関節や筋肉がこわばりやすくなり、痛みが出やすくなります。そのため、痛みのある関節を冷やさないように気を付けることやストレッチが大切です。

症状が痛みだけであれば、手指では変形性関節症やリウマチ、腱鞘炎などが考えられます。変形性関節症は関節を動かすことで軟骨がすり減り、関節の隙間が狭くなることで関節が不安定になり、痛みを生じます。痛みには個人差があり、生活に支障

がない場合は投薬などで経過観察しますが、ひどい場合は注射や手術を要する場合もあります。また、最近は女性ホルモンと関節炎の関係が指摘されるようになりました。女性の方は女性ホルモンが不安定になりやすい出産後や更年期に関節の滑膜炎が起きやすくなるため、女性ホルモン類似物質のサプリメントが症状の改善に効果があることもあります。

また、痛みにしびれを伴う場合は、手根管症候群や肘部管症候群などの神経が圧迫されて出る症状や、頸椎疾患の場合もあります。症状が軽い場合は痛みがなくしびれだけのこともあります。その場合は、糖尿病や脳卒中などの可能性も考えなくてはなりません。

特に手で起こる手指変形性関節症、腱鞘炎、手根管症候群、肘部管症候群などは手指や腕をよく使う方に発



症しやすく、治療の第一は安静になります。それでも改善しない場合や、痛みが強い場合に、投薬や注射、手術などの治療が必要となります。

私自身、治療をするうえで最も大切にしていることは、患者さん一人ひとりの希望を最大限に尊重すること。治療をはじめる前には、その治療法のメリットとデメリットをしっかりと明示したうえで、どのような治療をしていくかを患者さんとともに考え、個人個人の最適解に導いていく心がけています。

